

〔研究ノート〕 ポピュラー音楽の語法を中心とした 1980年代の『みんなのうた』に関する楽曲分析

中村, ますみ
鹿児島国際大学福祉社会学部児童学科 : 教授

佐藤, 慶治
鹿児島女子短期大学児童教育学科 : 准教授

<https://doi.org/10.15017/7167117>

出版情報 : 総合文化学論輯. 19, pp.63-70, 2023-11-01. Japan Institute for Comprehensive Cultural Studies

バージョン :

権利関係 : Copyright (C) 総合文化学研究所 all rights reserved. この論輯の全ての文章・画像の権利は、総合文化学研究所に属します。無断での使用・転載を禁止いたします。



〔研究ノート〕 ポピュラー音楽の語法を中心とした 1980 年代の『みんなのうた』に関する楽曲分析

中村 ますみ、佐藤 慶治

1. 本研究ノートの目的と導入（文責：佐藤）

本研究ノートは、NHK で 1961 年から現在まで放送の続く音楽番組「みんなのうた」をテーマとし、1980 年代の放送楽曲について当時の資料および音楽面より分析を行い、同番組放送楽曲のポピュラー音楽的な傾向が強まっていく過程を考察することを目的としている。1960-70 年代の「みんなのうた」について、佐藤はこれまで主に教育的な側面や意義を中心として分析を行ってきた¹。小学校高学年を主な対象とした「みんなのうた」への反響は大きく、開始当初は保育・教育を想定して作られた番組ではなかったものの、そこで放送された《大きな古時計》や《線路は続くよどこまでも》等のヒットを背景に、1970 年代以降の小学校の音楽科教科書や副教材、保育楽譜集に多くの楽曲が掲載されてきた²。

「みんなのうた」について、当初は NHK 内の青少年部で制作されていた青少年番組(教育番組)の位置づけであったが³、『NHK 年鑑』で確認すると 1984 年より芸能番組の扱いとなっている⁴。それに伴って多くの楽曲が音楽語法やリズムの面でポピュラー音楽的な傾向となり、ポピュラー系の作曲家による「みんなのうた」のためのオリジナル楽曲制作およびアイドル歌手等の起用が 1984 年以降に定番となっていることも明らかになっている⁵。

このポピュラー音楽路線への傾倒という点については、1969 年の《黒ネコのタンゴ》や、1971 年の《ピンポンパン体操》等のヒットの影響によって、1970 年代以降の「みんなのうた」では「売れる楽曲」の制作が求められるようになり、その結果、当時の制作班がだんだんと放送楽曲をポピュラー音楽寄りにしていったという事情がある⁶。

1980 年代以降、学校音楽教育へのポピュラー音楽の導入については「特集 教材としてのポピュラー音楽」(『教育音楽小学版 1984 年 1 月号』)など数多くの記事が編まれており、導入に関する賛否等が論じられてきた。1970 年代において教育的な影響力を持っていた「みんなのうた」が 1980 年代にポピュラー音楽的傾向を強めていったことは、学校音楽教育へのポピュラー音楽導入にも影響したと推察できるが、実際に 1980 年代の「みんなのうた」がどのようなポピュラー音楽的傾向を持っていたかについては、特に音楽面での分析がこれまで十分ではなかった。本研究ノートは、その面を明らかにするものである。

2. 1980 年代の NHK 資料からの分析（文責：佐藤）

本節では音楽面での分析に先立って、1980 年代における『NHK 年鑑』および『NHK テキストみんなのうた』を分析し、1980 年代の「みんなのうた」の放送楽曲に関する変化について考察する。まずは『NHK 年鑑』だが、80、84、85、90 の各号より「みんなのうた」の

番組目的について書かれた部分を引用したい。注意すべき点として、『NHK 年鑑 80』であれば、前年度の 1979 年度のことが書かれているものである。

80 号 豊かな情操をはぐくむ歌の数々を、創作曲の中から、また内外を問わず多くの人々に愛唱されている歌の中から広く求め、みんなそろって楽しく歌えることを目的としたこどもと家庭向けの歌番組。p.144(青少年番組の項目)

84 号 幼児が喜ぶ新しい歌、小学生から高校生まで口ずさめる歌、家族そろって楽しめる新鮮な歌の開発と、古くて忘れられているが、良い歌の再発見を目的とするミニ番組。p.144(青少年番組の項目)

85 号 幼児が喜ぶ新しい歌、小学生から高校生まで口ずさめる歌、家族そろって楽しめる新鮮な歌の開発を目的とするミニ番組。p.201(芸能番組の項目)

90 号 (85 号と同様の内容) p.135(芸能番組の項目)

これらを見てみると、1983 年度までの「みんなのうた」は青少年番組の位置づけであったが、1984 年度より芸能番組となっていることがわかる。ただし重要な点として、芸能番組に移行した後、1989 年度になっても幼児や小学生、家族というキーワードを使用していることがある。84 年号と 85 年号の違いは「古くて忘れられているが、良い歌の再発見」という目的の有無だけである。ではこの「古くて忘れられているが、良い歌」とは何か。

[佐藤 2017]では、1960-70 年代に「みんなのうた」で放送された童謡・唱歌・民謡についての分析を行っている。同番組最初のチーフ・プロデューサーを務めた後藤田純生は、初期「みんなのうた」の選曲基準を①「うたごえのヒット曲」、②「好ましい大人の歌」、③「新しい創作曲」、④「愛唱歌から」という四つの基準にしたと語っており⁷、童謡・唱歌・民謡はこのうちの④にあたる(ただし、④にはそれ以外にも戦後すぐの歌謡曲等も含まれる)。また『NHK 年鑑』における「古くて忘れられているが、良い歌」も、戦前に作られたという点でこの童謡・唱歌・民謡を当てはめることができるのではなかろうか。[佐藤 2017]では、初放送時の同ジャンル楽曲のみ分析を行ったが、再放送まで含めて 1980 年代の同ジャンル放送を概観してみると、以下のようになる。⁸

1980 年 2-3 月 早春賦(1979 年 2 月-3 月の再放送)

1980 年 6-7 月 夏は来ぬ(1979 年 6 月-7 月の再放送)

1981 年 2-3 月 花いちもんめ(1979 年 12 月-1980 年 1 月の再放送)

1981 年 12 月-1982 年 1 月 こきりこの歌(1982 年バージョンの初放送)

1982 年 2-3 月 早春賦(1979 年 2 月-3 月の再放送)

1982 年 6-7 月 夏は来ぬ(別バージョンの映像の初放送)

1983 年 12 月-1984 年 1 月 こきりこの歌(1981 年 12 月-1982 年 1 月の再放送)

1980 年代のこれ以降にはこのジャンルの放送が全くなされておらず、1983 年度までと 1984 年度以降で隔絶がある。また、各テキストに記載の編集コメントからも、上記ジャンルが「古くて忘れられているが、良い歌の再発見」とみなされていたことがわかる。例えば『みんなのうた 1981 年 2-3 月』には以下のコメントが記載されている。⁹

“かごめかごめ”と並んで、一番ポピュラーなわらべうたがこの“花いちもんめ”です。
[中略]最近でもたまに、公園や街角で子どもたちの歌声を耳にすることがあります。ということは、今だに祖母から母へ、母から子への伝承が続いているという証拠で、わたべうたや日本古謡の底力をみせつけてくれます。“みんなのうた”ではこれからも古き良き日本の歌心を消さないよう、なるべく数多くこういった歌をとり上げていきたい

上記より、青少年番組であった際の「みんなのうた」は、日本古謡の伝承ということも目的の一つとしていたことがわかる。1984 年度以降、放送楽曲の上ではこの目的がなくなってしまうが、移行間近の『みんなのうた 1983 年 12-1984 年 1 月』における「対談 みなみらんぼう VS 山川啓介 子どもの歌って難しいね」において、《山口さんちのツトム君》を作ったみなみらんぼう氏による以下のコメントが掲載された。¹⁰

ある雑誌で、昔の子守歌を“ねんねんころり…”と歌うと赤ん坊が泣き出すって書いてあった。リズムのあるダイナマンなどをガンガンかけるとコロッと寝ちゃうとか。うちの子も確かにそう。リズムのあるロックの方がよく寝るんですよ。[中略]ぼく思うんだけど、昔の子守歌は今の生活様式に合わなくなってきたわけですよ。

これはあくまでみなみ氏によるコメントであるが、その後の「みんなのうた」の変化を暗示しているといえるだろう。では「みんなのうた」における「新鮮な歌の開発」とは何だったのか。次節では、1980 年代「みんなのうた」の音楽面についてみていきたい。

3-1. 1980 年代「みんなのうた」の楽曲分析について（文責：佐藤）

1980 年代「みんなのうた」楽曲については、[葉口 2003]でも分析が行われ、作家・歌手・歌詞・ジャンルの項目での分類、変遷の考察が行われている¹¹。またこの分析においては特番で代表曲として紹介された楽曲に加え無作為抽出された楽曲が対象となっている。

本研究ノートにおいては、『NHK みんなのうた DVD-BOX 1～12』に含まれている楽曲のうち、1980 年代の 45 曲を分析の対象とし、調、拍、テンポ、使用音域、使用音符、跳躍進行、半音進行、メロディ始まり、シンコペーション、ジャンル、特徴的な和声進行・コード使用、使用楽器の特徴、という 12 項目の楽曲要素について、中村が分析を担当した。分析

表(本稿最後に掲載)を見ると、1983 年度までが 20 曲、1984 年度以降が 25 曲となっており、ポピュラー音楽的要素におけるそれぞれの比較としては次のようになる。

転調：1983 年度までが 30%の楽曲で使用、1984 年度以降が 24%の楽曲で使用

エオリアンモード：1983 年度までが 15%、1984 年度以降が 12%

半音進行の多用：1983 年度までが 30%、1984 年度以降が 24%

シンコペーション：1983 年度までが 60%、1984 年度以降が 84%

シンセサイザー：1983 年度までが 20%、1984 年度以降が 60%

これを見ると、必ずしも比較として 1984 年度以降の楽曲にポピュラー音楽的要素が多く含まれているわけではない。しかしポピュラー音楽の典型ともいえるシンコペーションの使用などは、1983 年度までの時点でも高いが、1984 年度以降は 8 割以上の楽曲で使用されており、芸能番組移行後の増加傾向がみられる。また、シンセサイザーは明らかに移行後の楽曲に多く使用されているようだ。更に 1980 年代全体として見たときに、跳躍進行が多用されている楽曲があったり、エイトビートの多用が目立つなど、やはりポピュラー音楽的な傾向が強いことがわかる。次項では、中村による 1980 年代楽曲の総括を記述する。

3-2. 「みんなのうた」 80 年代総括（文責：中村）

70 年代に始まったオリジナル楽曲の増加傾向は、さらに強まる。オリジナル楽曲のメロディに使用されていた音階は、70 年代から日本の音階の影響を受けたものがあつた（《北風小僧の寒太郎》《赤鬼と青鬼のタンゴ》など）が、80 年代になってもその傾向はなくなっていない。純然たる日本音階でなくても、第 4 音や第 7 音の使用がない節回しも多い。60 年代後半からの歌謡曲全盛期、特に 70 年代入ってからのアイドル歌謡などもその傾向はあり、特にフォークや演歌などに多いエオリアンモードは、西洋の音階と日本の音階の融合系ではないかと考える。「みんなのうた」にもその傾向は顕著であり、その結果、機能と声では対応しにくいこともあって、7th や 6th コード、sus4、ディミニッシュコード、音階固有の和音でないコードの使用などが見られる。つまり、これらのコードの使用や複雑化は、日本のポップスにおいて必要に迫られて発達したものと考ええる。

メロディやコードの多様化もさることながら、元々洋楽の影響が大きかったバックギングのリズムやパターンにおいては、70 年代後半からのコンピューター音楽の発達によって、より多様化複雑化していることは、「みんなのうた」においても同様である。さらに、シンセサイザーの進化で様々な音色を簡単に得られるようになったことや、DTM(デスクトップミュージック)における打ち込みにより、80 年代後半からは演奏スタイルにも変化があった。

4. まとめ（文責：佐藤）

以上、本研究ノートでは、1980 年代に刊行された NHK 資料および、「みんなのうた」の楽曲分析より、1980 年代「みんなのうた」の特徴について分析を行った。1984 年より同番

組が「芸能番組」の扱いとなったことで、童謡・唱歌・わらべうたの放送がなくなったことや、音楽面の分析により 1980 年代の楽曲は演奏スタイルを含めてポピュラー音楽的傾向が強かったことがわかった。これは一見、同番組が教育的役割を放棄したようにも思える。

しかし「みんなのうた」は 1984 年度以降、「芸能番組」としての扱いになったものの、1980 年代の時点ではまだ「子ども」を対象とした番組であり、番組テキストの内容も 80 年代を通して子ども向けの連載が掲載されている等、それを反映している。逆に言えば、1980 年代という時代は、同番組等を通じて子どもの歌にポピュラー音楽的な傾向が入り、子どもの歌や学校音楽がより豊かさを増していった時代ともみなせるのではないか。今後は、「みんなのうた」の楽曲分析をより進めるとともに、このテーマを課題として検討していきたい。

参考文献

- 葉口英子「"みんな"の『みんなのうた』：NHK 音楽番組の生産・消費をめぐる一考察」『マス・コミュニケーション研究 62 (0)』pp. 116-133., 2003
- 津布楽杏里『『NHK みんなのうた』の功績：幼稚園、小学校の歌唱教材から見て』『研究紀要 / 貞静学園短期大学紀要編集委員会編(4)』pp. 89-99., 2013
- 佐藤慶治「NHK 音楽番組『みんなのうた』最初期についての考察：童謡・唱歌・民謡を中心に」『総合文化学論輯 6』pp. 39-54., 2017
- 佐藤慶治「NHK 教育音楽番組『みんなのうた』の楽曲に関する研究：海外民謡を原曲とする楽曲と児童合唱団の隆盛」『総合文化学論輯 13』pp. 47-64., 2020
- 佐藤慶治「NHK『みんなのうた』の商業主義への転換－『ゼッキノー・ドーロ』楽曲の輸入を契機として－」『音楽学習学会紀要 16』pp. 57-66., 2021
- 日本放送協会編『NHK テキストみんなのうた 1980/4・5～1990/2・3』（日本放送出版協会）
- 日本放送協会編『NHK 年鑑 80,84,85,90』（日本放送出版協会）

注

- ¹ 例として、[佐藤 2017]や[佐藤 2020]を挙げる。
- ² [津布楽 2013] pp.94-97.
- ³ 「志村建世のブログ 2015 年 11 月 8 日」
<http://blog.livedoor.jp/shimuratakeyo/archives/55664359.html>(2023 年 10 月 1 日確認)
- ⁴ 『NHK 年鑑 85』（1985 年 10 月刊行）p.201.
- ⁵ [葉口 2003] p.121.
- ⁶ [佐藤 2021] pp.64-65.
- ⁷ [佐藤 2017] p.43.より再度の引用。
- ⁸ 楽曲情報については、『NHK テキストみんなのうた』より出典。
- ⁹ 『NHK テキストみんなのうた 1981/2・3』p.29.
- ¹⁰ 『NHK テキストみんなのうた 1983/12-1984/1』p40.
- ¹¹ [葉口 2003] pp.119-120.

[Analysis about 'Minna-no-uta' in the 1980s : Focusing on Musical Elements of Popular Music]

[NAKAMURA, Masumi 鹿児島国際大学福祉社会学部児童学科教授・音楽専攻、SATO, Keiji 鹿児島女子短期大学児童教育学科准教授・音楽教育学専攻]

1980年代の「みんなのうた」放送楽曲の分析表(中村ますみによる分析)

放送年月	楽曲名	うた	作詞者	作曲者	編曲	調	拍子	テンポ	使用音域	使用音符	設置進行	半音進行	メロディ始	シンコーンシン	ジャンル	特徴的な音声・進行・コード使用	使用楽器の特徴など	その他
1980年2月	オランガタン	増穂雄とピエロツクス	伊藤マキヲ	増穂雄	河野敏彦	C=♯1 =♯0	49の4	変調なし	63-65	5線・8線 3連符多用 9線・4連 9線・7連	5線・8線 3連符多用 9線・4連 9線・7連	超前期小節・間・音が強い ないロケイも	2拍目裏・4拍目・6線 2拍目表・3拍目・5線 2拍目表・3拍目・5線 2拍目表・3拍目・5線	ミニマルな調	B1 超前期音楽分析 メロディの分析 メロディの分析	オランガタン・オランガタン オランガタン・オランガタン オランガタン・オランガタン オランガタン・オランガタン	オランガタン・オランガタン オランガタン・オランガタン オランガタン・オランガタン オランガタン・オランガタン	
1980年4月	ハバとあるこう	石坂文雄 子どもの歌 笑い 杉 紀彦	丹波成樹	小沢成昭	小沢成昭	♯	49の4	変調なし	62-64	8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	8分音符としての活用 「ハバ」と「あるこう」 「ハバ」と「あるこう」 「ハバ」と「あるこう」	1拍目表・2拍目・4線 2拍目表・3拍目・5線 2拍目表・3拍目・5線 2拍目表・3拍目・5線	変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	
1980年4月	ヒロミ	原田 薫	伊藤マキヲ	平野静晃	記載なし	B1 1拍目表・2拍目・4線 1拍目表・2拍目・4線 1拍目表・2拍目・4線 1拍目表・2拍目・4線	49の4	変調なし	64-65	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	
1980年10月	よたごのオオカミ大冒険	ルネ・ベス・ヌーニ 鹿野重章	東山隆平	W・ゲラルディ	越前儀義	0=♯1 =♯0 0=♯1 =♯0 0=♯1 =♯0 0=♯1 =♯0	49の4	変調なし	64-65	3連符多用 3連符多用 3連符多用 3連符多用	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	
1980年12月	ぼくららのチキチ	ほりいくんと先生 小畑子	三井康章	記載なし	記載なし	C	49の4	♯1=60	B1-65	8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	
1981年12月	コンピュータおはあちゃん (高杉孝典作)	高杉孝典 伊藤良一	伊藤良一	坂本龍一	A	49の4	♯1=52	F♯3-65	8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	
1981年12月	アッパル・パッパル・アッパル・アッパル	竹内まりや 柳田隆平	加藤静彦	山根純一 (ピアノ) 加藤静彦	山根純一 (ピアノ) 加藤静彦	♯1=60 ♯1=60 ♯1=60	49の4	変調なし	63-64	8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	
1982年2月	おもいでのアムバム	芦屋 達子 ダーダ・タラス	達子とし	木多義典	高橋英久・木村重司	C	89の6	Andante	B1-65	8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	
1982年4月	かんかんカラス	加藤純子	つかこうへい	つかこうへい	高橋英二 (ピアノ) 高橋英二	♯1=60 ♯1=60 ♯1=60	49の4	変調なし	63-64	8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	
1982年8月	せんせいほんまにほんま	大友和夫と少年少女 友成 昭雄	古市航太郎	高橋 誠	高橋 誠	C	49の4	Modérato	64-65	8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	
1982年10月	ちいさい秋みつけた (1982年版)	ホニョウ・タラス	サトウハチロー	中田 重雄	000にも近感なし	♯1=60	49の4	♯1=60	B3-65	8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	
1983年2月	みんな家!	シミ・ゲル・パ 東京放送音楽部 木下忠男	吉田 重雄	吉田 重雄	C	49の4	♯1=60	♯1=60	63-64	8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	
1983年4月	ロバちゃんとおすけわ	アヲハス・チヤン 小畑恵子	中村静彦	記載なし	記載なし	F(♯) 1拍目表・2拍目・4線 2拍目表・3拍目・5線 2拍目表・3拍目・5線 2拍目表・3拍目・5線	49の4	♯1=80-100	A3-65	8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	
1983年4月	わたしの肌娘(始)	結あやさん	嶋田 隆	結あやさん	記載なし	F 5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	49の4	♯1=80-100	A3-65	8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符 8分音符、16分音符	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	5線・2線 5線・2線 5線・2線 5線・2線	変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	変調なし 変調なし 変調なし 変調なし	

放送年月	楽曲名	うた	作詞者	作曲者	編曲	調	拍子	テンポ	使用音域	使用音符	視聴進行	半音進行	メロディ始	シンクローション	ジャンル	特徴的な和声進行・コード使用	使用楽器の特徴など	その他
1983年6月	みずうみ	大貫妙子	山内啓介	クワイック	佐藤精一 (作作曲)	4 3拍子になった8 小調(同主調) =4分の4 =9分の8 =78くらい	4分の4 ♩=100	♩=80 ♩=100	♩=80 ♩=100	4分の4 ♩=100	♩=80 ♩=100	♩=80 ♩=100	♩=80 ♩=100	♩=80 ♩=100	♩=80 ♩=100	♩=80 ♩=100	♩=80 ♩=100	♩=80 ♩=100
1983年6月	リンゴの葉の子猫たち	藤田真澄	松本隆	海原正平	川村栄二	F#m F#	4分の4 ♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124
1983年8月	雨の島の花よめさん	本宮美奈子	北村あゆみ	越前清義	佐藤精一	E1: (3拍子) A 1: 6拍子 ♩=80 ♩=100	4分の4 ♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124
1983年12月	こだめきオリーブ	下屋アトム	鈴木英夫	大山康徳	佐藤精一	E1: (3拍子) A 1: 6拍子 ♩=80 ♩=100	4分の4 ♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124
1983年12月	白い道	北原ミレイ	海野洋司	イサナミルチ	石川晴也	E1	4分の4 ♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100
1984年4月	メトロポリタン美術館 (ミュージム)	大貫妙子	大貫妙子	清水通之	佐藤精一	C	4分の4 ♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100
1984年4月	おじいさんの電車	藤田真澄	山元秀多	福田和洋子	佐藤精一	D	4分の4 ♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100
1984年6月	キヤベツUFO	工藤静子	工藤静子	MAKI	F	4分の4 ♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100
1984年6月	カメレオン	シユガー	斎藤明子	大貫妙子	三枝成重	C	4分の4 ♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100
1984年8月	風ぐるま	小林幸子	やまだこうじ	宮崎尚志	宮崎尚志	E1: (3拍子) A 1: 6拍子 ♩=80 ♩=100	4分の4 ♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124
1984年8月	海へ来て	森田子	斎藤和子	森田公一	藤田真久	E1: (3拍子) A 1: 6拍子 ♩=80 ♩=100	4分の4 ♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124
1984年10月	赤い帽子	下原佐智子	林権三郎	たのえい	佐藤精一	E1: (3拍子) A 1: 6拍子 ♩=80 ♩=100	4分の4 ♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124
1984年10月	しるおのうた	海原正平	本下重太郎	斎藤明子	佐藤精一	C	4分の4 ♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100
1984年12月	雪祭り	藤田真澄	みねみちる	みねみちる	五間直治	E1: (3拍子) A 1: 6拍子 ♩=80 ♩=100	4分の4 ♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124	♩=124
1985年2月	恋するニトリ	森田子	森田子	森田子	森田子	E1	4分の4 ♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100	♩=100

